

浄土真宗の仏道は「聴聞」

一昨年いっさくねん以来いらいのコロナウイルスの

流行りゅうこうはいまだ終息しゅうそくが見通みとおせず、
また、ロシアによるウクライナへの
の侵攻しんこうなど、世界規模せかいきぼでの困難こんなん
な問題もんだいが次々つぎつぎと起おつています。

ロシアとウクライナの間あいだでも、
どうにか対話たいわで終結しゅうけつの糸口いとぐちが
見出みいだされることを願ねがうばかりで
す。

さて、五月ごがつの爽さわやかな季節きせつの
なか、草木くさきの芽吹めぶく音おとを聞き、
中で、薫かおりを聞き小鳥ことりのさえず
りを聴きくのもこの季節きせつならでは
でしよう。聞く・聴きくという言葉ことば

に思おもい浮うかべるのは、浄土真宗じょうどしんしゅう

では「聴聞ちようもん」が、大切たいせつであるとい
うことです。では「聴聞ちようもん」とは何
か？お寺てらにお参まいりして、仏ほとけさ
まのお話はなしを聞きかせて頂いたくこと

です。親鸞しんらん聖人しょうにんは教行信証きょうぎょうしんじょう
の中に「聞もん」といふは、衆生しゅうじょう、仏
願がんの生起しょうき本末ほんまつを聞ききて疑心ぎしんあ
ることなし、これを聞もんといふな

り、信心しんしんといふは、すなわち
本願力回向ほんがんりききこうの信心しんしんなり』とお示しめ
し下さりました。阿弥陀如来あみだによらいさ
まがなぜ願ねがい(本願ほんがん)を建たてられ
たのか、それは煩惱ぼんのうに苦悩くのうする

衆生しゅうじょう、すなわち私わたしたちがいた
からこそだった、そんな私わたしたち
を悟さとりの仏ほとけにするはたらきを
「南無阿弥陀仏なむあみだぶつ」の名なにあらわし
てくださったと聞きかせて頂いたくと
いうことです。

この「聴ちよう」と「聞もん」はどちらも
同じおなじきくということですが、ニユ
アンスが少し違ちがいます。「聴ちよう」は
こちらから積極せつぎよく的に聞ききにいく

こと。「聞もん」は耳みみに入はいってくること。
この阿弥陀如来あみだによらいさまのお話はなしを
こちらから積極せつぎよく的に聞ききにいく
ことがなければ教おしえは伝つたわりま

せん。聴きかなければ始はじまらない
のですが、お寺てらにお話はなししを聴き
に行いって、耳みみに聞きこえてみれば、
聴きいたからではなかつたと知しら
されます。阿弥陀如来あみだによらいさまの

本願ほんがんのはたらきが、私わたしに届とどけ
られていると聞きこえてみれば、
私が積極せつぎよく的に聴きいたからでは
なく、もうすでに最初さいしょから私わたし
に届とどいていたと気きづかされるの
です。

「聴聞ちようもん」はこれだけ聞きいたから、
これだけの結果けつかが得えられる、何なに
か自分じぶんにとつて良よいことがおこる
ということではありません。そ

んな自分中心じぶんちゅうしんのはからいがな
くならない煩悩ぼんのうに振ふり回まわされて
いる私わたしこそが、阿弥陀如来あみだによらいさま
の目当めあてであり、すでにお慈じひ悲ひ
の中なかにありましたと聞きかせてい

ただくのが聴聞ちようもんなのです。
五月ごがつには、当寺院とうじいんでも「永代
経法要きやうほうよう」を勤修致ごんしゆいたします。どな
たさまもお聴聞ちようもんください。